

## 認知症グループホーム 認知症グループホームくつろぎ

### 1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

### 2 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

#### （1）入退所の状況

定員	前年度末 利用者数	令和4年度中の入退所状況						利 用 延人員	年間平均 稼働率	年 度 末 利用者数
		入所	退所	退所理由別						
				家庭 復帰	施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
9人	9人	1人	1人	0人	1人	0人	0人	3,223人	98.11%	9人
3年度 9人	9人	5人	5人	0人	1人	3人	1人	3,170人	96.50%	9人

#### （2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	0人	2人	0人	0人	2人
女 性	0人	2人	3人	0人	2人	7人
計	0人	2人	5人	0人	2人	9人

（平均介護度3.22）

### 3 事業の実施状況

#### （1）専門的ケアの実施と個別支援

ア 認知症の人が抱える生活の困難さや物の見方・捉え方など、同じものさしで理解できるように認知症の研修を実施した。特にコミュニケーション力の向上の取り組みとして、ユマニチュードの手法を今年度も研修し、表情（安心出来る笑顔）、声のトーン、身体への触れ方など優しさの伝わる工夫や非言語的コミュニケーションの大切さにポイントをおき、手法が日々の支援に習慣化するよう努めた。また、毎月入居者のケースに合わせた困りごとを皆で考えながら一人ひとりの「今の生活のしづらさ」を職員で共有し寄り添った支援に繋がるよう努めた。

イ 入居者一人ひとりの機能を理解し、日常生活の中でできることの継続性、できないことへの支援の工夫など、本人の思いに基づいた活動的な生活に繋がるようアセスメント、ケアプランの作成、実践を目指した。

ウ 生活の継続性を目指し、個々の得意とする分野や料理・洗濯・掃除、菜園など家事活動を通して回想し、感謝を伝えながら活動の継続に努め役割や生きがいにつながる支援に取り組んだ。また、1日2回ラジオ体操・ストレッチ（頭と手の動き体操）・口腔体操（筋肉を刺激する発声、嚥下を促進する発声）・記憶力訓練（ことわざ）を実施、毎月回想法を意識したお楽しみ会を企画し身体を動かす機会を多く取り入れ体力・機能維持にも務めた。

オ 個々の既往歴や持病など主治医と連携を図り、通院や往診、健康管理等に努めた。また、体力や機能低下、急変時などによる家族の事前意向確認についても1年に1度聞き取りを実施し情報の共有を図った。

## (2) 職員の資質向上と人材育成

ア 職員研修会(年2回)、毎月定例会議において、理念、基本方針、人権、コンプライアンス、事業計画など必要な研修を実施した。特に接遇や認知症に関する研修は虐待や身体拘束に繋がる内容を交えながら、常に意識した支援に繋がるよう支援技術の向上に努めた。精神的ケア研修として、聖マリアンナ医科大学「いのちを見つめた900日」から命の尊さ、家族の心に赴きをおいた伝え方、チーム一体となった取り組み方などを映像を通し研修を実施した。また、認知症介護実践者研修に1名参加し事例課題を皆で共有した。コロナ禍により外部研修は自粛、グループホーム内での研修に切り替えた。

イ 専門誌の購読で介護に関するあらゆる情報を提供し視野が広がるよう支援を行った。個別研修計画を作成、個別面談を通じ各自目指す姿がより明確になるようアドバイス支援した。

## (3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

ア 運営推進会議を例年通り2ヶ月毎の計画としていたが、くつろぎ内の新型コロナウイルス感染症クラスター発生や県内感染発生状況等から2回の対面会議開催(6月・2月)4回の書面会議開催(4月・8月・10月・12月)し、委員の方にはご理解、ご指導・助言を頂いた。

イ 地域交流は手段がつかめない状態が続いていたが、4月後半より2週間に1度、移動スーパー「とくし丸」による買い物を開始した。くつろぎ玄関先で自分の好きな物を選び、自分で支払いを行い社会と繋がる取り組みを実施した。

ウ 一人ひとりの生活の様子を分かりやすく、毎月「くつろぎ便り」を発行し家族の安心に繋げた。3月より感染対策を講じながらくつろぎ玄関内で対面面会を開始した。

エ 11月には茶房あさひに出かけ、鳥取市湯所「最勝院」住職による法話の交流会を開催した。

オ 各災害に備えて、火災想定訓練、地震想定訓練、緊急時対応訓練実施、近隣施設、伏野つばさ園との合同防災訓練を実施した。

## (4) 経営基盤の確立

ア 日々の健康管理と早期対応に努め、稼働率の安定に努めているが、高齢者特有の加齢に伴う病態変化等免れない入院者もあり稼働率98.11%となったが目標稼働率97%を上回った。身体の加齢に伴い、浴槽に入れられない入居者が4名あり、12月に入浴リフトを設置し、現在では全員が浴槽内につかることが出来るようになった。

イ 8月17日～9月3日まで18日間、新型コロナウイルス感染症クラスターが発生(入居者8名、職員7名(他施設応援職員含))

## (5) 労働環境の整備

ア 月1回安全衛生委員会において、健康・環境面などの視点から産業医の助言を受け、働きやすい職場環境について協議し安心して働けるように努めた。随時業務の見直しを行い、休憩時間の確保や時間外勤務の軽減に努めた。より働きやすい職場環境を目指して何

でも相談し合える風通しの良い職場になるよう、更に取り組んでいきたい。

イ 介護ロボットの活用による異常時の早期発見やタブレットによる記録の省力化によって、職員の負担軽減と共にリスクの軽減に繋がっている。

#### 4 実習、ボランティアの受入状況

##### (1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
豊岡短期大学通信教育部 社会福祉士養成通信課程ソーシャルワーク実習	5月	1人	1人
計		1人	1人

##### (2) ボランティアの受入実績

最勝院住職

(計：延べ1人)